

令和5年度 ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立吉田中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全学年	総合的な学習	吉田の芸能を体験しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人(子ども神楽の小田和子さん、晴木邦幸さん、火焰太鼓の古居哲夫さん、影山和美さん) ・舞手の衣装、楽器(深野神楽)や和太鼓(火焰太鼓) ・地域の方に教えてもらって、神楽を舞ったり、火焰太鼓を演奏したりした。
	ねらい	<p>○一人ひとりが課題を見つけ、方法を工夫しながら、その課題を追究し、解決していく。</p> <p>○地域の「ひと」・地域にある「もの」・地域にはぐくまれた「こと」と関わりながら、ふるさと「吉田」をあらためて知り、ふるさとに愛着と誇りを持つ。</p> <p>○地域の活動から学び、考えたことを発表し、感謝の気持ちや地域のために貢献しようとする思いを持つ。</p>	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設講座名 ①火焰太鼓 ②深野神楽 ・班編制 受講希望調査の結果により、全校生徒の縦割り班とした。 ①火焰太鼓 15名(1年2名、2年8名、3年5名) ②深野神楽 8名(1年2名、2年1名、3年5名) ・活動時間 2時間×5回(全10時間) 文化祭のリハーサルと本番での発表 ・活動内容 ①火焰太鼓 吉田地区の和太鼓を練習し、文化祭で発表した。 吉田の方が作曲された「清流」を演奏した。 ②深野神楽 田井地区の深野神楽を練習し、文化祭で発表した。 今年度は演目「陰陽」を演舞した。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ふるさと「吉田」をあらためて知るために、伝統芸能である「深野神楽」や「火焰太鼓」の練習に取り組んだ。 2) 地域貢献への意欲を高めるために、練習した「深野神楽」や「火焰太鼓」を文化祭で地域の方や家族に向けて発表した。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) よりよい発表に向けて、伝統文化に携わる地域講師の指導を生かして課題設定や振り返りを行った。 2) 相手意識・目的意識をもった表現力の向上に向けて、文化祭での発表の場を設けたり専門委員会の活動として講師への礼状を書いたりした。 <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 10時間の練習を通して地域の伝統文化について理解を深め、ふるさと「吉田」への愛着や誇りを高めることができた。 2) 文化祭での発表では保護者や地域の人からの高評価を受け、伝統文化を引き継いでいくことの大切さを実感し、地域貢献への意欲を高めることができた。 3) 地域の講師から学ぶことによって、自分のふるさとには素晴らしい方々がいることに誇りを持ち、また感謝の気持ちをもつことができた。 			

(学力育成の視点から)

- 1) 文化祭でのよりよい発表に向けて地域講師の指導を生かして、伝統文化の所作や技術を磨くことができた。
- 2) 文化祭ではそれぞれの講座とも自信をもって自分達の練習の成果を発表することができ、表現力の向上につながった。

4 課題や今後の展望

- 1) 生徒数の減少に伴って、特に「深野神楽」の発表の場の設定が困難になりつつあるので、地域講師だけでなく地域の方とも連携し、文化祭での発表の場を継続していきたい。
- 2) 今後ますます生徒数が減少する中で「深野神楽」と「火焰太鼓」の2講座を続けていくのが困難な場合は、それぞれを隔年で行うなど対応を考えていく必要がある。

